

総説・原著・症例報告・短報・Letter to the Editor の記載方法

1. 表紙（和文）

【表題（略語を用いない）：サブタイトル（必要に応じて）】

表題＋サブタイトルで合計 50 文字以内

【著者名（corresponding author 責任著者）には「*」を付ける．著者は 10 名まで）】

著者 1 所属 No) 著者 2 所属 No) 著者 3 所属 No)

著者 4 所属 No) 著者 5 所属 No) 著者 6 所属 No)

【所属（適宜，所属機関名および診療科名と所属 No を追加すること）】

1) 所属機関名（和、英）

2) 所属機関名（和、英）

3) 所属機関名（和、英）

4) 所属機関名（和、英）

5) 所属機関名（和、英）

【Corresponding author（責任著者）連絡先】

連絡先住所（和）：〒

連絡先住所（英）：〒

所属機関名：

【Corresponding author（責任著者）の連絡先（英文での名前表記、メールアドレス）】

【和文キーワード（5 語以内）】

2. 和文抄録

和文 要旨

・ 字数制限：総説，原著，症例報告は 400 字以内で記載．短報は 300 字以内で記載．
Letter to the Editor は抄録なし．

・ 構造化抄録：原著，症例報告，短報は構造化した抄録で書く．総説の場合は構造化しないで抄録を書く．

・ 原著は背景，方法，結果，考察の形とし，症例報告および短報は背景，症例提示，考察（あるいは，背景，方法，結果，考察）の形で書く．

3. 英文でのタイトル・著者・抄録・キーワード

【英文 表題：英文サブタイトル（必要に応じて）】

英文表題＋サブタイトルで 20words 以内

【英文 著者名】

Author 1, 学位所属 No),

Author 2, 学位所属 No),

Author 3, 学位所属 No),

Author 4, 学位所属 No),

Author 5, 学位所属 No),

Author 6, 学位所属 No)

【英文 要旨】

・ 字数制限：総説，原著，症例報告は 300 words 以内で記載．短報は 200 words 以内で記載．Letter to the Editor は抄録なし．

・ 構造化抄録：原著，症例報告，短報は構造化した抄録で書く．総説の場合は構造化しないで抄録を書く．

・ 原著は Background, Methods, Results, Conclusion(s) の形とし，症例報告および短報は Background, Case presentation, Discussion（あるいは，Background, Methods, Results, Conclusion(s)）の形で書く．

【英文キーワード（和文キーワードと相対するもの 5 語以内）】

4. 本文

・ 総説 (Review Article) : 15,000 字以内（日本語）／7,500 words 以内（英語），図・表は 8 点以内，引用文献数の制限はなし

・ 原著 (Original Article) : 本文のみで 15,000 字以内（日本語）／7,500 words 以内（英語），図・表は 6 点以内，引用文献は 100 個まで

・ 症例報告 (Case Report) : 本文のみで 10,000 字以内（日本語）／5,000

words 以内（英語），図・表は 6 点以内，引用文献は 100 個以下

- ・短 報 (Short Communication)：本文のみで 6,000 字以内（日本語）／
3,000 words 以内（英語），図・表は 4 点以内，引用文献は 50 個以下

- ・Letter to the Editor：本文のみ：2,000 字以内（日本語）／1,000 words
以内（英語），図・表は 1 点以内，引用文献は 10 個以下

- ・本文中で文献を引用する場合は，肩番号に代わり，引用箇所に著者名と発表年を記載
して下さい。

例：Hillis (2023) によると…，…とされている (Hoefst ら 2024)。

- ・同じ著者で同じ発表年に複数の引用文献がある場合，年数にアルファベットを付記し
て下さい。

例：2024a, 2024b

- ・本文の構造(総説を除く)

はじめに

本報告に関連する内容に関して，英文を含めて過去から最新の文献までのレビューを
行い，その上で今回の報告の目的（特に今までにない新しい点や重要な点）を明確に書
いて下さい。

方法

特異的な検査や介入を行った場合は，その目的や手法を明確に記載して下さい。統計手
法についても明確に記載して下さい。

（症例報告であっても，症例提示，方法，結果の 3 つに分けることをお勧めします。）

結果

検査の結果を記載する場合は，標準値も記載して下さい。

考察

最初に今回の主たる結果のポイントを挙げて下さい。その後，今回の結果の解釈につい
て，関連する過去の知見を含めて議論して下さい。さらに，臨床上への示唆，一般化で

きる可能性や範囲，さらにはこの研究の限界点を記載するのが一般的です。

・症例報告や短報では，はじめに，症例提示，考察という構造を取ることが多いですが、上記の4つに分かれた構造の方が適合する場合があります。

・Letter to the Editor では構造化する必要はありませんが，構造化する場合と同様に明確な論旨の流れが求められます。

5. 研究参加同意，倫理的配慮，利益相反，資金提供，著者の役割

研究参加同意

<https://www.higherbrain.or.jp/wp/wp-content/uploads/2024/03/rinri2023.pdf>

倫理的配慮

<https://www.higherbrain.or.jp/wp/wp-content/uploads/2024/03/rinri2023.pdf>

利益相反

<https://www.higherbrain.or.jp/wp/wp-content/uploads/2024/03/coi2023.pdf>

著者全員に利益相反がない場合は，下記の文言を記載して下さい。

「本論文に関連して，著者全員に開示すべき利益相反となる企業、団体、組織はありません。」

資金提供の明示

資金提供がない場合の例：「本研究に対する特別な資金提供はありません。」

資金提供がある場合の例：「本研究は，～の助成（必要に応じて番号などの明記）を受けて実施されました。」

著者の役割（以下が例です）

研究のデザイン：山田桃子

データ収集：山田桃子、鈴木次郎

データ分析：山田桃子

論文執筆（初稿）：山田桃子

図表の作成：鈴木次郎

論文校閲・編集：佐藤太郎，田中花子

監修：田中花子

AI は著者になることができません。AI を使用した場合は，その利用範囲について記載して下さい。

謝辞（必要に応じて）

6. 文献

・本文に引用した文献を以下の例にならい，論文筆頭著者のアルファベット順で記載して下さい。

・同じ著者で同じ年に複数の引用文献がある場合には，年数にアルファベットを付記して下さい。

例：2024a, 2024b.

・同じ著者で異なる年の論文は，発表年代順にして下さい。

・文献の書き方は，PubMed の Cite 機能に代表される NLM (National Library of Medicine) の形式を基本とします。間違いを防ぎ，かつ，簡便に文献を記載するため，PubMed に掲載されている英文雑誌に関しては PubMed の Cite 機能を利用して下さい。利用の仕方は以下のリンクを御覧ください。

https://drive.google.com/file/d/1qaCJa55aemygMKYw8gQdZUnU_40aaS7a/view?usp=sharing

なお、PubMed には医学に対応している NLM 形式のみならず，心理学に対応している (American Psychological Association) 形式の 2 種の形式がありますが，以下のよう NLM 形式を使用して下さい。PubMed に掲載されていない雑誌（和文誌も含む）についても，以下の NLM の形式に準じて下さい。

・高次脳機能研究をはじめとする J-STAGE に掲載されている和文誌は，各論文のサイトの J-STAGE 上のテキスト機能を使用すると正確な引用が可能となります。書籍の場合は Vancouver 形式を用いて下さい。

雑誌の場合

- 1) Blangero A, Ota H, Rossetti Y, Fujii T, Ohtake H, Tabuchi M, Vighetto A, Yamadori A, Vindras P, Pisella L. Systematic retinotopic reaching error vectors in unilateral optic ataxia. *Cortex*. 2010; 46: 77-93. doi: 10.1016/j.cortex.2009.02.015.
- 2) 太田祥子, 松田 実, 鈴木匡子. 発語失行と構音障害. 高次脳機能研究. 2024; 44: 156-160. doi: 10.2496/hbfr.44.156.

書籍の場合

海外の読者でも書籍についてのある程度の概要を把握できるよう、できる限り URL または doi を記載して下さい。

- 1) McNeil MR, Pratt SR, Fossett TRD. The differential diagnosis of apraxia of speech. In: Maassen B, ed. Speech Motor Control in Normal and Disordered Speech. Oxford: Oxford University Press; 2004. p. 389-414. doi:10.1093/oso/9780198526261.003.0015
- 2) 日本高次脳機能学会 Brain Function Test 委員会. 標準失語症検査補助テスト. 改訂第 1 版. 東京: 新興医学出版社; 2011.
<https://www.higherbrain.or.jp/publication/test/slta-st/>
- 3) 菅野倫子. 言語症状. In: 藤田郁代, 立石雅子, 菅野倫子, 編. 失語症学. 第 3 版. 東京: 医学書院; 2022. p. 42-57.
<https://www.igaku-shoin.co.jp/book/detail/108286>
- 4) 石合純夫. 高次脳機能障害学. 第 3 版. 東京: 医歯薬出版; 2022. p. 281-291.
<https://www.ishiyaku.co.jp/search/details.aspx?bookcode=266510>

更新を伴う電子書籍の場合

電子書籍はしばしば更新されますので、どの時点の情報であったかを明記する必要があります。電子書籍の更新日と著者のアクセス日を明確に記載して下さい。

Hashmi MF, Tariq M, Cataletto ME. Asthma. In StatPearls. StatPearls Publishing. Updated August 8, 2023. Accessed February 1, 2024.

<https://www.ncbi.nlm.nih.gov/books/NBK430901/>

ウェブサイトの場合

上記同様、ウェブサイトに更新日の記載があればそれを記載し、著者のアクセス日は明確に記載して下さい。

World Health Organization. COVID-19 vaccines. Updated August 30, 2023. Accessed September 8, 2024. <https://www.who.int/emergencies/diseases/novel-coronavirus-2019/covid-19-vaccines>

7. 図と表

・簡潔で明瞭なものにしてください。図は JPEG, PNG, GIF, TIFF などのファイル形式を推奨します。また、300dpi 以上の解像度としてください。表は Excel または Word として下さい。

・図と表のそれぞれの番号を本文の該当箇所に挿入して下さい。図と表のそれぞれの番

号、タイトル、説明文は本文末に記載してください。

・図と表は別ファイル（図は図でひとつずつ、表は表でひとつずつ）で upload してください。

・記載例

図（または表）1 【タイトル】

【説明文】

【出典】転載の場合、出典を明記する

8. Supplementary data（動画，音声）表題と説明

本文の該当箇所に挿入して下さい。

動画 50MB まで、mp4 ファイル

音声 10MB まで、mp3 ファイル

動画と音声の両方を提出する場合、合計 50MB まで

【タイトル】

【説明文】